

「A」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 明けぐれの空に、雪の光見えておぼつかなし。(源氏物語)

- (訳) 夜明けの薄暗い空に、雪明かりが(白く)見えて、(あたりが)「」。
- ①寂しくなっている ②美しく輝いている ③際だっている ④ぼんやりしている

1 「」

2 ありがたきもの。舅にほめらるる婿。また、姑に思はるる嫁の君。(枕草子)

- (訳) 「」もの。舅(妻の父親)にほめられる婿。また、姑(夫の母親)に愛されるお嫁さん。
- ①めったにない ②期待はずれな ③優秀な ④大切な

2 「」

3 たまかみに立ち出づるだに、かく思ひのほかなることを見ると、をかしう思す。(源氏物語)

- (訳) たまににかけてさえ、このように意外なことを目にするよと、(光源氏は忍び歩きを)「」お思いになる。
- ①不安だと ②おもしろく ③滑稽だと ④むなしく

3 「」

4 世を捨てて山に入る人山にてもなほ憂き時はいづちゆくらむ(古今和歌集)

- (訳) 俗世間を捨てて(出家し)山に入る人は、山においてもやはり「」時は(今度は)どこへ行くのだらう。
- ①わびしい ②つらい ③むなしい ④悲しい

4 「」

5 見すべきことありて、呼びにやりたる人の来ぬ、いとくちをし。(枕草子)

- (訳) 見せようというものがあって、呼びにやった人が来ないのは、とても「」。
- ①無礼だ ②悲しい ③悔しい ④残念だ

5 「」

6 心ばせある少将の尼、左衛門とてあるおとなしき人、童ばかりぞとどめたりける。(源氏物語)

- (訳) 気がきく少将の尼と、左衛門とって仕えている「」女房と、童女の召使だけを残しておいた。
- ①年少の ②身分の低い ③大人しい ④年配の

6 「」

7 つれづれわぶる人は、いかなる心ならん。まぎるる方なく、ただ一人あるのみこそよけれ。(徒然草)

- (訳) することのない状態を「」人は、どのような心なのだろう。(事にも人にも)まぎれることなく、たった一人でいることこそよいのだ。
- ①つらいと嘆く ②おもしろく感じる ③物足りないと感じる ④やめようと思う

7 「」

8 人の顔に、とり分きてよしと見ゆる所は、度ごとに見れども、あなをかし、めづらしとこそおぼゆれ。(枕草子)

- (訳) 人の顔で、特にいいと見える所は、(顔を合わせる)たびごとに見ても、ああ美しい、「」と思われ。
- ①珍しい ②ありがたい ③いとしい ④すばらしい

7 「」

9 月かげゆかしくは、南面に池を掘れ。さてぞ見る。(梁塵秘抄)

- (訳) 月明かりが「」ならば、屋敷の南正面に池を掘れ。そうして(池の水面に映る月を)見るのだ。
- ①よき人はあやしきことを語らず。(徒然草)

8 「」

10 よき人はあやしきことを語らず。(徒然草)

- (訳) 「」人は不思議なことは語らない(ものだ)。

10 「」

11 盗人あやしと思ひて、連子よりのぞきければ、若き女の死にて臥したるあり。(今昔物語集)

- (訳) 盗人は「」と思って、連子窓からのぞくと、若い女で死んでよこたわっている人がいる。

9 「」

12 雨など降るもをかし。(枕草子)

- (訳) (夏の夜に)雨などが降るのも「」。

12 「」

11 盗人あやしと思ひて、連子よりのぞきければ、若き女の死にて臥したるあり。(今昔物語集)

- (訳) 盗人は「」と思って、連子窓からのぞくと、若い女で死んでよこたわっている人がいる。

11 「」

12 雨など降るもをかし。(枕草子)

- (訳) (夏の夜に)雨などが降るのも「」。

12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語330三訂版 P 365 P 45

- 1 「④」
- 2 「①」
- 3 「②」
- 4 「②」
- 5 「④」
- 6 「④」
- 7 「①」
- 8 「④」
- 9 「見たい」
- 10 「身分が高く教養のある」
- 11 「不思議だ」
- 12 「趣がある」